

書などが異なる多様な住民の方に参加いただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方について、住民の方々との対話により多彩なアイデアや提案を収集する「よさの地域デザイン会議」。今月号では、第2回地域別会議と全体会の様子をお伝えします。

野田川地域（11月1日開催）

意 見

- まずは庁舎の統合を。加悦庁舎が一番新しいが、中心である野田川地域を検討してはどうか。
- 地区公民館は災害時のためにも近くに必要。
- こども園や小学校は旧町単位に1つ、中学校は2つに統合。
- 加悦にある生産加工施設と給食センターを組み合わせてはどうか。
- 与謝野駅は町内唯一の駅なので、もっと力を入れてにぎわいづくりを。
- スポーツ振興施設や公園等を一体化し学校の近くに配置できることで教育の充実が図れると思う。
- グラウンドのすべてのナイター設備をLED化すると大変なので、一部の設備にすればよいのでは。
- 体育館やグラウンド、大規模集会施設等は旧町単位に1つ。ナイターが使用できる場所を限定して節約できることはする。
- 使えない、使い切れない、有効活用できない施設は、区・NPO法人・民間事業所などに貸す、譲るなどまちから

ら「施設を手放す」ことも考えるべき。

- 地域間、施設間を結ぶ交通機関、移動の仕組みが必要。
- 財政に余裕ができるまではあまり動かなくてもよいのでは。

感 想

- 旧町ごとに施設カードを並べてみると、野田川地域は保育所や小学校は多いが、他の施設は他地域より少ないことがよくわかった。
- 加悦に生産加工施設があるのを知らなかった。
- 多くの施設があることに気づいた。維持していくにもお金が多くかかる大変だと改めて感じた。
- 町民の意見を聞くことは良いことだと思うが、細かい話になると町民としては非常に難しい。
- 他のグループの意見を聞くと、学校施設は災害時の避難施設として必要という意見もあった。多方面から考えることが大切だと気付かされた。
- 多目的で使えるように考へるには、あえて目的・年齢分けなどしないほうがよい。

加悦地域（11月2日開催）

意 見

- 使い勝手に応じて公共施設を集約すべき。案外無駄な施設が多いのでは？
- 文化財施設は統合できないので、ルートを作り観光資源として活用。
- 公共施設を利用するにあたって制約が多い。制約を減らし利用しやすくして、適正な利用料金を徴収する。
- 複合するのではなく、今あるものを活用し、お金を落としてもらえるようにする。
- 交通の便は悪い、宿泊や食事は弱いので、滞在してもらえる仕組みづくりが必要。
- 幸福度が高くお金を生む施設が理想。幸福度が低くお金がかかる施設をどのように生まれ変わらせるか。
- 「減らす」べきものは減らす、「+α」で成長させるものは成長させる。
- 観光客にいかにお金をつかってもらうか（外貨を獲得）。
- 利用率が低い施設は手を放す。手を放し集約後、新たなサービスにより行政サービスを維持すればよい。
- サービスの提供先を変えるのも一つ。
- 町内外から人が集まる大きな場所（キャンプ場・運動場・体育館・食べる所・図書館など）ができれば。

□ 学校と学童を一緒にする。

- 公民館は祭りや災害などでも必要と考えるが、地区的コミュニティだけでなく、町や町外の誰でもワークショップなど悪徳商法ではない営利利用できるように仕組みを変えることで、また違うコミュニティができるきっかけになる。
- 人が集まる「大きな場所への集約・複合」と「規制緩和による小さな新コミュニティ形成」。

感 想

- 旧町単位で公共施設の特色がカード（色）によってよく分かった。
- 多くの施設と利用状況を初めて知った。前回の情報との統合が少しづつできてきた。
- 「ちりめん」というキーワードが前回もなく協議のキーワードにあっても良いと思う。
- キャリアを活かして田舎でも活躍できる場所を実現できれば、田舎でも働きやすいまちになる。
- 今後、特に子どもの人口が減っていくこと、借金が増えることを全町民に知ってもらい、意見を聞くべき。
- 公共施設を「遠い近い」で話し合いをするのはナンセンス。

<<<< 次ページからは「全体会」の様子をお知らせします

よさの地域デザイン会議

白熱、地域別会議

～ 第2回のテーマは「集約と複合」～



上・下／公共施設カードをもとに対話を深める

岩滝地域（11月5日開催）

意 見

- スポーツ活動が活発な与謝野町だからこそ、健康増進のためスポーツ施設は残してほしい。
- 地区公民館をもっと有効に活用できるようにしてほしい（子育て支援、文化・スポーツ活動など）。
- 多世代間で交流できる施設（公民館、スポーツ、体験、子育てなど）。
- 1つの場所で1日過ごすことができる施設（コミュニティセンター、役場窓口機能の出張所、医療・リハビリ、映画館、温泉施設など）。
- 観光向けに宿泊施設と体験施設が一体となった施設（宿泊施設、キャンプ場、体験施設など）。
- スケートボード場は話題性がありイメージ作りにも良いが、「費用対効果」「いつまで有効利用できるか」「取り壊しの費用」などを考えなければならない。
- 大きい施設（複合施設）を1つ作り、公共交通を整えることができれば良い。
- 年代にとらわれない施設があればうれしい。

感 想

- 人口減・施設の重複・老朽化・維持費が町民にうまく伝わっていない。また、施設の状況（グラウンドに雑草が茂っているなど）を見れば人口減・施設の重複・老朽化・維持費の問題がよくわかる。
- 若い人の意見が大事、高齢者は後押しと応援。
- 今の時代、施設を安易に建ててほしくない。

こんなにもあつたのか公共施設

約や複合化が考えられるのかについて参加者で意見を出し合いました。

今回新たなアイテムとして名刺サイズの公共施設カードが準備され、「建築年」「築年数」「主な利用者」「利用者数」等を表示したカードを確認しながら、参加者は対話を深めました。また、他のグループでどのような意見が出されているかを確認し、新たな気付きからさらに話し合いを進めることで、よりアイデアを膨らませました。各地域での意見や感想は次のとおりです。